

## 令和8年度 第1回中央特別支援学校 学校運営協議会 報告

- 1 日 時 令和8年5月29日（木） 午前9時30分～11時30分
- 2 会 場 本校 大会議室
- 3 参 加 者

### (1) 学校運営協議委員

静岡市あさはた緑地管理事務所 所長  
静岡県立こども病院 副看護部長  
静岡てんかん神経医療センター 副看護部長  
麻機学区自治体連合会 会長  
静岡大学教育学部 教授 ※欠席  
本校 PTA 会長



### (2) 校内教職員

校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、教務主任

## 4 会議次第および議事録（要約）

### (1) あいさつ

### (2) 運営協議会委員紹介、職員紹介

### (3) 本年度学校経営計画の説明

将来の豊かな生活にむけて学校教育目標は昨年から引き続き。児童生徒を真ん中に、こどもの思いや願いを大切にみんなで支える。安全・安心、指導、連携という三つの柱で進めていく。安全・安心部は3つの柱の土台。人権意識の向上や、県の指定を受けて2年間の計画で医療的ケアの防災体制づくりに取り組む。指導部では専門性の向上に取り組む。今年度から給食課を指導部に置き、摂食指導に力を入れていく。連携部では、交流および共同学習について課題と向き合いながらしっかりと取り組む。デジタルプラットフォームの本格導入とも併せて個別も教育支援計画の活用にも取り組みたい。また今年度から児童生徒について話し合う時間の捻出等を目的に、日課変更を行った。校内外での支援会議等を活用したい。合言葉の「キラリ&ホット」が根付いてきた。今年度も大切にしていきたい。

### (4) 校内参観



### (5) 運営協議会委員からの感想、意見

- ・学校経営計画の「評価」の対象となる成果目標は教職員の目標なのか学校の目標なのか。  
→学校経営計画は教職員の目標。
- ・どのように評価するのか。評価のためにチェックリストを使うなど、評価の基準が入ってくると個々の感覚でなく評価できる。  
→学校評価の取り方を議論している。ABCD 評価でほぼ AB になる。評価をとってどう次につなげるかが課題。教職員が学校経営に参画していく意識を高めていきたい。すべての職員が参画意識もてるようにという視点も含めて、どう評価を取るか。検討している。

- ・評価には数字と質がある。数値化できるとわかりやすい面もある。
- 数値化による評価のメリットデメリットも踏まえて評価について検討していきたい。
- ・参画を促す点では、教職員の自己評価の形はよい。評価は相対的でいい。
- ・子どもと向き合いながら、運営、評価と教職員も大変だと感じる。その点で日課変更はよかったと思う。子どもにとっても、働いている先生方にとってもよいバランスが大切。
- ・グランドデザインについて。病院にも理念や目標があるが、どのようにして職員が目標に向かって取り組んでいくのかは課題。年に2回、職員は査定がある。チェックリストがあり、行動目標、連絡相談、身なり等で評価。今年、看護部は「専門性を高める」がキーワード。自己研鑽だけでなく、病院が費用を出して研修に参加できる環境を整えてくれている姿勢が見えるので、職員の働きやすさや働きがいにつながる。
- ・キラリ&ホットについて、指導、連携についても経営計画の中に可視化できるとよい。
- ・昨年と比べて校内は目に見えている物が減ってすっきりし、安全への配慮も改善している。
- ・物が少なくなっている。物品に日付をつけて、長年使っていないものは片付けるとよい。コード等がまとまっていてよい。災害時の避難の時にもよい。表示がきれいになっている。地震の時の出入り等わかりやすい。寄宿舎でも災害時の表示を色分けしてよい。
- ・地盤沈下が心配。さす股が取りやすくなっていたが、よりよい方法があるかもしれない。
- 防災ボックス等、昨年の助言を受けて改善している。意見をいただけるのがありがたい。
- 4施設防災（本校、静岡北特支、静岡てんかん神経医療センター、こども病院）でもより連携していきたい。
- ・建物が古く、天井が低い。廊下が広く、壁が少ないという第一印象。環境面からの働きにくさは要望を出した方がよい。県立の施設は同じように建物が古いところが多い。災害時の浸水も懸念している。どう守るか、常に考えている。4施設での防災は、協力し合いながらやっていきたい。
- ・環境の改善について、断られることに慣れてしまい、訴える力が弱くならないようにしたい。下級生に引き継いでいきたい。建物は古いがやっていることは新しい。デジタルに対応するためにも箱も変えていきたい。
- ・タブレットの活用も増えている。
- ・生成AIを活用した個別の指導計画に作成について、何を使っているか。
- 文部科学省の事業を受けて生成AIに指導要領等の教育や学習に関する情報を取り込んだ教育に特化した生成AIを使用する。生成AIからの素案を参考にして、教員が話し合っで作成する。昨年度末からモデル校中心に取り組んでおり、本校では研修や体験会を経て来年度にむけて取り組む。
- ・中学部、教職員が一生懸命語り掛けて授業をしていた。高等部、就職に向けてしっかり取り組んでいる。
- ・学校教育目標は保護者にも刺さってほしい。子どもも学校もがんばっている。気持ちのやり場がなく、保護者側の心が豊かでなくなっているようにも感じる。学校は敵ではない。子どもたちが伸びる姿を任せるのでなく、できる限り保護者も応援できるように保護者の横のつながりも促していきたい。

## (6) 今後の予定

第2回 令和8年9月25日（金）9:30～11:30

第3回 令和8年11月18日（水）9:30～11:30 ※静岡北特支と合同開催

第4回 令和9年2月18日（木）9:30～12:00